福沢健全期『時事新報』の署名入社説について

静岡県立大学　平山　洋

The university of Shizuoka, Hirayama Yo, PhD

日本思想史学会大会発表

於東京大学・2017年10月28日

**①「福沢健全期『時事新報』社説起草者判定」ー研究の経過ー**

１．明治15年3月から明治18年3月まで3年1ヶ月分のテキスト化（338編）と判定（科研費2013年度）

２．推定福沢起草社説42編（338編の12.4%）の発見（2013年10月日本思想史学会大会発表）

３．明治18年4月から明治24年9月までの6年6ヶ月分のテキスト化（1086編）と判定(科研費2014年度）

４．推定福沢起草社説173編（1086編の15.9％）の発見（2014年10月日本思想史学会大会発表）

５．明治24年10月から明治31年9月までの7年分のテキスト化（非網羅的672編）と判定（科研費2015年　　度）

６．推定福沢起草社説68編（672編の10.0％）の発見（2015年10月日本思想史学会大会発表）

７．明治15年3月から明治31年9月まで16年7ヶ月分のテキスト化（2449編）と判定（本務校研究費2016　　年度）

８．推定福沢起草社説278編（2449編の11.5％）の発見（2016年10月日本思想史学会大会発表）

９．福沢以外の署名入社説（全集未収録）全部を分析の対象としてそれらの傾向性を探る（2017年10月日本　　思想史学会大会発表）

**②平成２9年度の研究についての留意点**

１．福沢健全期の全集未収録社説総てをテキスト化する方針に変更したが、研究費が枯渇したため中断してい　　る

２．今年度分析の対象とするのは、福沢以外の全署名入社説である

**③署名入社説について気づいたこと**

１．社説は本来ならば無署名で、『時事新報』の場合一人称を「我輩」とするのが通例であるが、執筆体制の　　不備により編集部で用意できない場合がある

２．そのため投書等を作者の了解のうえで社説欄に掲載することがあった

３．投書が存在したのか定かではないものがある（投書の形をとった編集部の見解の可能性もある）

４．1889年までは福沢の弟子である袖浦外史（矢田績）・豊浜漁夫・ボーストン某生（日原昌造）らの投書は　　最大限尊重されている

1. シモンズについては最初から本名である

６．編集部OBである高橋義雄の投書もまた尊重されている

1. 編集部員（社説記者）である石河幹明や渡辺治の署名入社説がある
2. 高橋義雄や日原昌造が尊重されているのは1889年まで　④参照
3. 1890年以降は署名入社説は減少し、あるとしても外国の新聞・雑誌・書籍の翻訳となる　④参照

10．1890年に編集方針の変更があったことが強く示唆されている

**④署名入社説の出現数**

1. 各年別の署名入社説数(外国著作物の翻訳を含む)　1882年3編（3日分）、1883年11編（14日分）、1884年17編（23日分）、1885年13編（13日分）、1886年7編（8日分）、1887年17編（32日分）、1888年41編（79日分）、1889年19編（40日分）、1890年6編（6日分）、1891年7編（14日分）、1892年8編（17日分）、1893年11編（11日分）、1894年2編（3日分）、1895年4編（8日分）、1896年1編（1日分）、1897年2編（2日分）、1898年1編（1日分）　全部で170編（265日分）

２．各年別の外国著作物の翻訳　1882年0編（0日分）、1883年0編（0日分）、1884年0編（0日分）、1885年1編（1日分）、1886年0編（0日分）、1887年1編（10日分）、1888年1編（1日分）、1889年3編（10日分）、1890年0編（0日分）、1891年2編（8日分）、1892年4編（9日分）、1893年7編（7日分）、1894年1編（2日分）、1895年4編（4日分）、1896年0編（0日分）、1897年0編（0日分）、1898年0編（0日分）

**⑤署名入社説170編の一覧**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 18821026 | 俗宗旨俗僧侶 | 浅草藤谷空然 |
| 18821201 | 中正の判断 | 袖浦外史 |
| 18821227 | 牛場高橋井上三氏の渡韓を送るの文 | 袖浦外史 |
| 18830212 | 未来の支那 | 袖浦外史 |
| 18830220 | 米国叢談（一） | 村井保固（談） |
| 18830221 | 国体の志想 | 袖浦外史 |
| 18830222 | 米国叢談（二） | 村井保固（談） |
| 18830223 | 米国叢談（三） | 村井保固（談） |
| 18830224 | 米国叢談（四） | 村井保固（談） |
| 18830312 | 国立銀行の貸付法を論ず | 天外迂史 |
| 18830317 | 自由言論の区域を論ず | 山中道正 |
| 18830511 | 読士族就産論 | 松野小蔭 |
| 18830922 | 清仏交渉の跡を鑑みて感あり | 豊浜漁夫 |
| 18830924 | 沖縄県よりの来翰 | 沖縄県一老生 |
| 18831112 | 広告の事に付商人某氏よりの来状 | 商人某 |
| 18831210 | 呉服物は日本製に限ることを得るか | 呉服商某 |
| 18831221 | 文明の進退は人心に於て見ざる可らず | 豊浜漁夫 |
| 18840114 | 清仏葛藤の終局如何（一） | シモンズ |
| 18840115 | 清仏葛藤の終局如何（二） | シモンズ |
| 18840223 | 明治十七年首欧洲列国の形勢 | 英国倫敦友人某 |
| 18840315 | 国東並に埃及事件に関する英仏両国の交際 | 英国特別通信者 |
| 18840327 | 交際論 | 橋本武 |
| 18840630 | 三菱郵便汽船港の航路を止む | 香港日本人某 |
| 18840806 | 日本に鉄道は無用なり（一） | シモンズ |
| 18840807 | 日本に鉄道は無用なり（二） | シモンズ |
| 18840822 | 英国は親しむべし疎んずべからず | 英国倫敦通信者 |
| 18841013 | 人の己れを知らざるを憂う | 英国倫敦通信員 |
| 18841021 | 国と政府との区別 | 英国倫敦通信員 |
| 18841101 | 耶蘇教国 | 英国倫敦某 |
| 18841106 | 立憲国の国会 | 英国豊浦生 |
| 18841111 | 日本は東洋国たるべからず（一） | 英国豊浦生 |
| 18841113 | 日本は東洋国たるべからず（二） | 英国豊浦生 |
| 18841114 | 日本は東洋国たるべからず（三） | 英国豊浦生 |
| 18841119 | 英国政府の地位 | 英国豊浦生 |
| 18841124 | 日本人種改良（一） | 英国豊浦生 |
| 18841125 | 日本人種改良（二） | 英国豊浦生 |
| 18841129 | 伊太利王室の地位 | 英国豊浦生 |
| 18841208 | 海軍拡張（一） | 英国豊浦生 |
| 18841209 | 海軍拡張（二） | 英国豊浦生 |
| 18841212 | 埃及国の処分 | 英国豊浦生 |
| 18850227 | 東洋の礼西洋の理 | 英国倫敦豊浦生 |
| 18850404 | 欧州政治上の形勢 | Ｅ．Ｗ．Ｅ |
| 18850826 | 鉄道の運賃割引の事 | 東京日本橋区一商人 |
| 18850828 | 地方倹約の状況 | 東海道人 |
| 18850918 | 次の三菱会社 | 東京日本橋南の一商人 |
| 18851006 | 日本婦人論を読む | 米国社友 |
| 18851008 | 白人遂に此地球を領す可し | 英国スペクテートル新聞抜粋 |
| 18851009 | 士族の称を廃すべし | Ｓ．Ｈ． |
| 18851022 | 開国雑居一日も遅疑すべからず | Ｓ．Ｈ． |
| 18851102 | 食物の改良 | 東京神田駿台山人 |
| 18851103 | 万国発明品博覧会の日本出品 | 英国倫敦某 |
| 18851105 | 貧乏人の苦情 | 東京神田の一貧人 |
| 18851111 | 混合写真（コンポゥツト　ポルツレイト） | 米国通信 |
| 18860119 | 加藤弘之君日本人種改良論の弁を弁ず（一） | 高橋義雄 |
| 18860120 | 加藤弘之君日本人種改良論の弁を弁ず（二） | 高橋義雄 |
| 18860127 | 政府の執務時間改正に就き予め一言 | 代言士Ｓ．Ｓ． |
| 18860521 | 中山道鉄道工事の進むを見て信州人に告ぐ | 東京信濃の一書生 |
| 18860708 | 士人帰商論 | 高橋義雄 |
| 18861004 | 命が物種 | 日本橋区有髯商人 |
| 18861112 | 東京百万の府民に運動を勧告す | 小林梅四郎 |
| 18861209 | 日本と豪州との貿易 | 志賀重昂 |
| 18870224 | 朝鮮国王退位の風説 | 井上角五郎 |
| 18870226 | 日本商人の品位 | 米国福沢一太郎 |
| 18870317 | 何を以て万里好来の客に酬いん | 石河幹明 |
| 18870319 | 諸外国人に日本来遊を勧むるの広告 | 高橋義雄 |
| 18870325 | 社会活劇の趣向は如何 | 石河幹明 |
| 18870330 | 外国人を待つの身構は如何 | 高橋義雄 |
| 18870412 | 海防費に付て一言 | 芝一書生 |
| 18870416 | 洋学の前途に望む所あり | 小野友次郎 |
| 18870511 | 商家の覚悟 | 森下岩楠 |
| 18870802 | 何をか文明と云う | シモンズ（伊吹雷太訳） |
| 18870903 | 日本社会論（一） | シモンズ（伊吹雷太訳） |
| 18870905 | 日本社会論（二） | シモンズ（伊吹雷太訳） |
| 18870906 | 欧州列国の大勢（一） | チャールズヂルク（渡辺治訳） |
| 18870907 | 欧州列国の大勢（二） | チャールズヂルク（渡辺治訳） |
| 18870908 | 欧州列国の大勢（三） | チャールズヂルク（渡辺治訳） |
| 18870909 | 欧州列国の大勢（四） | チャールズヂルク（渡辺治訳） |
| 18870910 | 欧州列国の大勢（五） | チャールズヂルク（渡辺治訳） |
| 18870912 | 欧州列国の大勢（六） | チャールズヂルク（渡辺治訳） |
| 18870913 | 欧州列国の大勢（七） | チャールズヂルク（渡辺治訳） |
| 18870914 | 欧州列国の大勢（八） | チャールズヂルク（渡辺治訳） |
| 18870915 | 欧州列国の大勢（九） | チャールズヂルク（渡辺治訳） |
| 18870916 | 欧州列国の大勢（十） | チャールズヂルク（渡辺治訳） |
| 18871114 | 英国東洋の航路（一） | 渡辺生 |
| 18871115 | 英国東洋の航路（二） | 渡辺生 |
| 18871119 | 露国東洋政略の近状（一） | 社友某談話 |
| 18871120 | 露国東洋政略の近状（二） | 社友某談話 |
| 18871122 | ヴンクーヴー汽船航路と日本との関係（一） | 志賀重昂 |
| 18871123 | ヴンクーヴー汽船航路と日本との関係（二） | 志賀重昂 |
| 18871210 | 西洋の風を模するには取捨する所あるを要す（一） | 英国高橋達 |
| 18871211 | 西洋の風を模するには取捨する所あるを要す（二） | 英国高橋達 |
| 18871212 | 西洋の風を模するには取捨する所あるを要す（三） | 英国高橋達 |
| 18871224 | 米国商話 | 森下岩楠演説 |
| 18880111 | 時事新報に謝す | 東京神田生 |
| 18880201 | 支那に関する西洋人の意見（一） | シモンズ（伊吹雷太訳） |
| 18880203 | 支那に関する西洋人の意見（二） | シモンズ（伊吹雷太訳） |
| 18880204 | 鉄道乗車切手の改良を望む（一） | 横浜本町一商人 |
| 18880206 | 鉄道乗車切手の改良を望む（二） | 横浜本町一商人 |
| 18880208 | 法律復古の色あり | シモンズ（小野友次郎訳） |
| 18880218 | 大坂の商売を進むるは旧物破壊の手段に在り（一） | 渡辺治 |
| 18880220 | 大坂の商売を進むるは旧物破壊の手段に在り（二） | 渡辺治 |
| 18880229 | 欧米職工の生活如何（一） | 米国人メリウイザー |
| 18880301 | 欧米職工の生活如何（二） | 米国人メリウイザー |
| 18880306 | 外国行の日本学生 | シモンズ |
| 18880309 | 生命保全会社創立 | 小林梅四郎 |
| 18880310 | 東京明渡の結果如何 | シモンズ |
| 18880310 | パナマ運河 | シモンズ |
| 18880310 | 欧州戦争の説 | シモンズ |
| 18880324 | 職工の賃銀と教育との関係 | 米国新聞紙訳文 |
| 18880412 | 過度の教育 | シモンズ |
| 18880423 | 日本の美術及び衣服（一） | シモンズ |
| 18880424 | 日本の美術及び衣服（二） | シモンズ |
| 18880425 | 日本の美術及び衣服（三） | シモンズ |
| 18880426 | 日本の工商業家に告ぐ（一） | 英国高橋達 |
| 18880427 | 日本の工商業家に告ぐ（二） | 英国高橋達 |
| 18880508 | 教育の経済（一） | シモンズ |
| 18880510 | 教育の経済（二） | シモンズ |
| 18880528 | 耶蘇教を入るるか仏法を改良するか | 福沢一太郎原文翻訳 |
| 18880530 | 病人の用に供するソップの製方 | シモンズ |
| 18880625 | 土地の説（一） | シモンズ |
| 18880626 | 土地の説（二） | シモンズ |
| 18880628 | 日本鉄道論（一） | 社友某 |
| 18880629 | 日本鉄道論（二） | 社友某 |
| 18880701 | 日本鉄道論（三） | 社友某 |
| 18880702 | 日本鉄道論（四） | 社友某 |
| 18880703 | 日本鉄道論（五） | 社友某 |
| 18880705 | 日本婦人の真似洋服 | シモンズ |
| 18880706 | 日本鉄道論（六） | 社友某 |
| 18880707 | 日本鉄道論（七） | 社友某 |
| 18880709 | 日本鉄道論（八） | 社友某 |
| 18880713 | 治者被治者（一） | ボーストン某生 |
| 18880714 | 治者被治者（二） | ボーストン某生 |
| 18880716 | 治者被治者（三） | ボーストン某生 |
| 18880717 | 米国商売 | 森下岩楠 |
| 18880718 | 法は以て民福を造るに足らず | ボーストン某生 |
| 18880727 | 米国大統領の候補定まる | ボーストン某生 |
| 18880728 | 世界は広し交通は速なり | ボーストン某生 |
| 18880730 | 米国雑説（一） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18880731 | 米国雑説（二） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18880801 | 米国雑説（三） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18880802 | 米国雑説（四） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18880804 | 米国雑説（五） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18880806 | 米国雑説（六） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18880807 | 米国雑説（七） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18880808 | 米国雑説（八） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18880813 | ブーランジエー論（一） | 倫敦霞岳生 |
| 18880814 | ブーランジエー論（二） | 倫敦霞岳生 |
| 18880815 | ブーランジエー論（三） | 倫敦霞岳生 |
| 18880816 | ブーランジエー論（四） | 倫敦霞岳生 |
| 18880825 | 支那人拒絶 | ボーストン某生 |
| 18880828 | 人品論（一） | ボーストン某生 |
| 18880829 | 人品論（二） | ボーストン某生 |
| 18880905 | 民育の事（一） | 倫敦某 |
| 18880906 | 民育の事（二） | 倫敦某 |
| 18880913 | 帰朝記事（一） | 福沢一太郎原文翻訳 |
| 18880914 | 帰朝記事（二） | 福沢一太郎原文翻訳 |
| 18880915 | 帰朝記事（三） | 福沢一太郎原文翻訳 |
| 18880917 | 帰朝記事（四） | 福沢一太郎原文翻訳 |
| 18881016 | 政事を以て私に殉する勿れ | 石河幹明 |
| 18881017 | 式の流行 | 菊池武徳 |
| 18881018 | 地方官の交際 | 菊池武徳 |
| 18881026 | 多数崇拝論 | 菊池武徳 |
| 18881106 | 国会奇談（一） | 筑陽生 |
| 18881107 | 国会奇談（二） | 筑陽生 |
| 18881108 | 国会奇談（三） | 筑陽生 |
| 18881111 | 国会奇談（四） | 筑陽生 |
| 18881119 | 責任内閣望なきに非ず（一） | 傲霜生 |
| 18881120 | 責任内閣望なきに非ず（二） | 傲霜生 |
| 18881121 | 国会の準備（一） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18881122 | 国会の準備（二） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18881205 | 秘密主義 | 石河幹明 |
| 18881206 | 我日本は海国なり（一） | ボーストン某生 |
| 18881207 | 我日本は海国なり（二） | ボーストン某生 |
| 18881208 | 我日本は海国なり（三） | ボーストン某生 |
| 18890105 | 心の保養 | 福沢一太郎立案 |
| 18890113 | 独逸新帝 | 倫敦エコノミスト抄訳 |
| 18890114 | 酒茶煙草珈琲の効能（一） | 米国シーヤレ論説（石河幹明訳） |
| 18890115 | 酒茶煙草珈琲の効能（二） | 米国シーヤレ論説（石河幹明訳） |
| 18890116 | 酒茶煙草珈琲の効能（三） | 米国シーヤレ論説（石河幹明訳） |
| 18890117 | 酒茶煙草珈琲の効能（四） | 米国シーヤレ論説（石河幹明訳） |
| 18890118 | 巴奈馬運河会社 | 岩本述太郎 |
| 18890204 | 忠孝論 | ボーストン某生 |
| 18890205 | 立君政統論 | ボーストン某生 |
| 18890223 | 政党論 | ボーストン某生 |
| 18890226 | リヴァプールの歳暮（一） | リヴァプール高橋義雄 |
| 18890227 | リヴァプールの歳暮（二） | リヴァプール高橋義雄 |
| 18890308 | 教育の犠牲（一） | シモンズ |
| 18890309 | 教育の犠牲（二） | F・マキス |
| 18890311 | 教育の犠牲（三） | ムーレル |
| 18890312 | 教育の犠牲（四） | エドワード・A・フリーマン |
| 18890313 | 教育の犠牲（五） | フレデリック・ハリソン |
| 18890509 | 仏蘭西人（一） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18890510 | 仏蘭西人（二） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18890513 | 仏蘭西人（三） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18890524 | 愛嬌が大切なり | 衣手生 |
| 18890530 | 西洋の万国博覧会（一） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18890531 | 西洋の万国博覧会（二） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18890601 | 日本の万国博覧会（一） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18890603 | 日本の万国博覧会（二） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18890604 | 来年の内国博覧会（一） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18890605 | 来年の内国博覧会（二） | 英国倫敦高橋義雄 |
| 18890619 | 日本新聞事業の発達 | 高橋義雄英語演説翻訳 |
| 18890817 | 日尊東卑（一） | 高橋義雄 |
| 18890819 | 日尊東卑（二） | 高橋義雄 |
| 18890820 | 日尊東卑（三） | 高橋義雄 |
| 18890821 | 日尊東卑（四） | 高橋義雄 |
| 18890822 | 日尊東卑（五） | 高橋義雄 |
| 18890920 | 鉱業投機の成行 | 英国倫敦経済雑誌抄訳 |
| 18891007 | 人種論（一） | 仏人グワスタヴァ・ルポン原文翻訳 |
| 18891008 | 人種論（二） | 仏人グワスタヴァ・ルポン原文翻訳 |
| 18891009 | 人種論（三） | 仏人グワスタヴァ・ルポン原文翻訳 |
| 18891010 | 人種論（四） | 仏人グワスタヴァ・ルポン原文翻訳 |
| 18891011 | 人種論（五） | 仏人グワスタヴァ・ルポン原文翻訳 |
| 18891225 | クリスマス | 福沢一太郎 |
| 18900222 | 体育のすすめ | エドウィン・アーノルド演説 |
| 18900415 | 大演習の概評 | 石河幹明 |
| 18900422 | 琵琶湖疏水工事 | 石河幹明 |
| 18900815 | 貧民への対策について | 秋田県能代社友某氏 |
| 18900915 | 在海外日本人の社交法 | 高橋義雄演説 |
| 18901230 | 世界の風潮 | 在英国通信員植村 |
| 18910402 | 欧州諸国に於ける賃銀と関税（一） | 米人メリヴィザー欧州周遊記抄訳 |
| 18910403 | 欧州諸国に於ける賃銀と関税（二） | 米人メリヴィザー欧州周遊記抄訳 |
| 18910601 | 社会復古論（一） | スペンサー著作抄訳 |
| 18910603 | 社会復古論（二） | スペンサー著作抄訳 |
| 18910604 | 社会復古論（三） | スペンサー著作抄訳 |
| 18910605 | 社会復古論（四） | スペンサー著作抄訳 |
| 18910608 | 社会復古論（五） | スペンサー著作抄訳 |
| 18910609 | 社会復古論（六） | スペンサー著作抄訳 |
| 18910709 | 日本の国会 | 米国某 |
| 18910717 | 士族論 | 米国某 |
| 18911010 | 欧羅巴鉄道の瑕キン（王＋僅の人偏なし） | Chaunoy M.Depew寄稿抄訳 |
| 18911120 | 豪州（一） | ロンドンタイムス大意訳説 |
| 18911121 | 豪州（二） | ロンドンタイムス大意訳説 |
| 18911204 | 米国下院に於ける議事の妨碍 | 米国下院レパブリカン党議員ロッジュ原文翻訳 |
| 18920112 | 穀類の相場 | ハッチソン原文 |
| 18920412 | 水力と電気 | クレー、マッコーレー演説 |
| 18920616 | 党派政治の極難（一） | ゴールドウィン・スミス論文大意翻訳 |
| 18920617 | 党派政治の極難（二） | ゴールドウィン・スミス論文大意翻訳 |
| 18920618 | 党派政治の極難（三） | ゴールドウィン・スミス論文大意翻訳 |
| 18920619 | 党派政治の極難（四） | ゴールドウィン・スミス論文大意翻訳 |
| 18920621 | 党派政治の極難（五） | ゴールドウィン・スミス論文大意翻訳 |
| 18920714 | 日本女子の生活 | 福沢たき |
| 18921005 | 病素実験（一） | 北里柴三郎 |
| 18921006 | 病素実験（二） | 北里柴三郎 |
| 18921118 | 電気鉄道と機関車鉄道との比較（一） | 独逸工学士ローム、シャテル原文翻訳 |
| 18921119 | 電気鉄道と機関車鉄道との比較（二） | 独逸工学士ローム、シャテル原文翻訳 |
| 18921210 | 伝染病の予防を如何せん（一） | 松山棟庵 |
| 18921211 | 伝染病の予防を如何せん（二） | 松山棟庵 |
| 18921213 | 伝染病の予防を如何せん（三） | 松山棟庵 |
| 18921224 | 軍用鉄道商用鉄道（一） | 社友某 |
| 18921225 | 軍用鉄道商用鉄道（二） | 社友某 |
| 18930114 | 北海道 | F.M. |
| 18930525 | 煙草税則に対する意見 | 東京商業会議所員某 |
| 18930610 | 豪州に於る銀行の破産 | 紐育Nation翻訳 |
| 18930702 | 印度の銀勢 | アミール・アリ論文意訳 |
| 18930805 | 金の騰貴 | レオナルド・コールトニー論文抜抄意訳 |
| 18930806 | 銀法及び其結果 | 前米国造幣局長リーチュ原文抄訳 |
| 18931008 | 世界中最も早き列車 | レールロードガゼット記者プラウト原文翻訳 |
| 18931018 | 世の教育家に質す | 山口石川生 |
| 18931118 | 関税法の改革 | 合衆国下院議員マクミリン原文翻訳 |
| 18931119 | 雑居尚早論に就て | 水戸某 |
| 18931130 | 欧州諸大国は能く其軍備を維持し得可きや | サー、チヤアレス、ヂルク原文翻訳 |
| 18940110 | 本軌鉄道と狭軌鉄道 | 理学士福沢捨二郎 |
| 18940506 | ナイアガラ瀑布制御の大計画（一） | カルチスブラウン |
| 18940508 | ナイアガラ瀑布制御の大計画（二） | カルチスブラウン |
| 18950110 | 新領地を御するの方針如何（一） | 逸田楼主人 |
| 18950111 | 新領地を御するの方針如何（二） | 逸田楼主人 |
| 18950112 | 新領地を御するの方針如何（三） | 逸田楼主人 |
| 18950113 | 新領地を御するの方針如何（四） | 逸田楼主人 |
| 18950605 | 英露の親交は到底望む可らず | プロフェッーサーヴァンベリイ論文抄訳 |
| 18950623 | 英国と新日本（日英同盟論） | W・H・ウィルソン論文の要旨 |
| 18950627 | 日本人民とアングロサクソン人種 | 桑港クロニクル新聞要約、H・ハウェルス、G・S・クラーク |
| 18951215 | 蓄電池 | エレクトリカルレヴュー |
| 18960607 | 台湾教育の方針 | 碩果生 |
| 18970116 | 監獄費国庫支弁と自家用酒の廃止 | 東北地方社友 |
| 18970209 | 重役の人撰 | 大阪堀井卯之助 |
| 18980426 | 米西両国開戦の影響 | 竃沢塗辰燃 |

**⑥特徴的な署名入社説の内容紹介**

１．**18830924「沖縄県よりの来翰」沖縄県一老生**：本物か編集部の偽作か不明

一書呈上仕候陳ぶれば私儀は沖繩縣の一民にして本縣は父母朋友の里、祖先墳墓の地、永年住息の家國に候得ば事、該地の利害休戚に係る者なるに於ては差出が間敷くも我等の哀情一應申述度偏に御推察奉願上候偖本縣元琉球と相唱へ候頃隣國の支那人等は我を指して日清兩屬の國なりと云ひ甚たしきは琉球爲中國之所屬など謂はれもなき事共申して實は島民の面目を辱しむること少なからざりしかども如何せん我等の一國は固より絶海の孤島、人少く力乏しく唯彼の言ふがまゝにして忍ひ居りし折柄天未だ琉球を見棄給はず手を本國の大政府に假りて支那の驕慢を挫き我等嶋民は虎狼の口を脱して慈母の手に歸したるの心地、永劫の大恩誼此上もなき次第に候然處彼自大の支那國は今以て覬覦の念を絶たず頻りに軍艦を作り兵備を張り清廷にて當時顯要の或人々は中國は必らず琉球を爭ふべしと迄に口外致候との取沙汰有之我等直接の利害を感ずる者共に取ては實以て不容易次第日夜眠食すら安んじ難く恐悸痛心罷在候

そも沖繩の縣地が日本の版圖たるべき証跡は千百之ある中にも指當り言語の日本國に同き風俗衣服の亦日本國に同きは畢竟日本本陸と沖繩と開闢以來一体分身の國柄たる証據に相違なく又全島民の口碑に今の沖繩人民が本陸民の後裔なること紛れもなき實証多き其中にも特に分明なる者を擧れば舊國王の系統は其昔御曹子爲朝の後裔にて遠くは清和の餘派なること爭ふ可らざる事實に御坐候且つは慶長の十四年島津義久幕命にて琉球を撫綏あり爾後其配下に屬して三百年一日の如く日本國の保護を仰ぎ居候處爰に王政御一新忝くも聖天子親政を執らせられ明治五年九月舊國王尚泰に勅諚を下され藩王の封爵を賜り日本國の朝廷に接邇して直接に天日の威光を奉仰し殊に本島の人民台灣の夷民の屠戮を受け其遺族訴ふる所なきを御憐憫ありて辱くも本國の大兵を煩はし又支那との談判を勞し奉り藩王へは大政府より種々の恩賜を給はり更に明治十二年四月に至り恐多くも聖天子の思召にて藩王を華族に列せられ舊主人は永く輦下に駐居して聖廷に咫尺し奉り其恩遇の厚き他の武門公家の諸公と同一の格式を以て御扱ひ有之而して全島の人民は則ち縣治の下に属し他の諸府縣と一樣の布政を蒙むる事と相成候右樣の御思澤その難有こと如何樣喩ふるに物なく我等全島の者共生て此聖澤に逢ふ心中の喜悦是上もあらず候實に絶海の島地若し本國の庇蔭に由らざりせば我等爭で天日の威光を仰視し永代聖朝の民たるを得申す可きや之を思へば愈聖恩の渥きを感し第政府武斷の御政略を拜するの外無御座候

然處この恩威を戴くの傍に爰に尚苦心と申すは前段にも開陳仕候通り今に至るまで隣國支那人の擧動に御座候我等獨り孤島に在て對岸の支那國が頻に疑似の形述を其言に發し、行ひに顯はすを承はり候ては我等の心細さ殊に甚しく固より大政府の御保護に對し兎や角不足を申す儀には無御坐候得共元來敵手は無作法の支那人故今日攻め來るやも難知、斯ては何を賴みに防ぎ戰はんか人口僅に三十五万、土地狭隘四周皆海、殊には積年文學を事とせし國柄なれば敵と鬪はんずる武力あらず内地の兵備尚未た嚴ならずして海岸に砲臺なし又軍艦を見ず左ながら垣根なく門戸なき零屋に獨居して盗賊の來るを待つの心地、せめて海底電線の敷設にても候はゞ急を本國に告ぐるの便利、幾何か安心の種に可相成候得共これさへ未た實施の塲合に至らず難堪事に候

斯る有樣に候得ば一朝支那國より沿岸の測量などを名義にし其軍艦を以て我海口に出沒する歟伹し万國の公法にも無頓着なる者共突然に兵士を上陸致させ何等の所業に可及哉も難計寒心の至に不堪斯く申上候ては嶋民共如何にも卑怯の樣に思召さるべく汗顔の次第に候得共人の言を承るに近來の文明世界にて武力の強弱は全く道具仕掛けと申す事に候得ば支那人の武勇素より我日本人に及はざること遠しとは申ながら彼等の富有を以て軍艦銃砲の器械を自由自在に使用致し候得ば一旦の變に成敗の程も甚た心もとなく被存候に付ては誠に自由が間敷請願には候得共大政府特別の御仁慈を以て沖繩の海港には常に三四艘の軍艦を以て非常を警衛し海岸の要害には砲臺を設け陸上の兵備、海底の電線、本陸と氣聲を通して機を誤ることなき樣仕度左樣相成候得ば支那人が如何に我島を窺〓致居候共我等島民旦夕に危懼の憂へを免れ又彼等も是上は其肝を冷やして野卑の心を絶ち旁大政府の御心配をも休め奉ることと考へ罷在候

從來當縣の義は政府の御厄介にのみ罷成り縣地の國税地方税迚誠に微々たる者にて政府の御大計上に於ても出入相償はざる事と存候得共絶海の孤島、他諸縣の御例に拘はらず海防の御手當は即ち日本國の防禦と思召されて篤く御注意を賜はり哀れ我等臣子をして危懼の憂を免かれしめ島地廢藩置縣の恩澤を無窮に傳へ我大日本國の武威を率土の濱にまで治ねからしめんこと島民一同の請願に御座候この請願は我等如き身分に於て大政府へ〓達するの〓もなく地方廳へ出願することさへ如何やと憚り胸中の苦心やるせなき折抦幸なる哉時事新報御社にては早くも日支の關係を能々御洞察これあり平生の御議論實に我等の賴み甲斐あることと存じ斯くは我等の心情を申上げ且つ其餘白を假て廣く我同胞諸兄の輿論にも問ひ奉り度、唐突の仕〓ながら前文の微衷〓に御憫察の上御酌取被下度紙に臨んで胸中言はんと欲する所を失ひ不盡意の所は萬々御察し被下候樣奉願上げ候頓首

　　明治十八年八月　沖繩縣　一老生

時事新報編輯局御中

２．**18841111「日本は東洋国たるべからず（一）」英国豊浦生（日原昌造）**：「脱亜論」の原型？

左の一篇は九月廿六日附を以て在英國の特別通信員より寄送し來りたるものなり近年東洋諸國が連りに西洋諸國の爲めに侵辱せらるゝを見て顧みて本國日本の有樣を通觀するに文明進化の遲々たる轉た憂國者をして斷膓の思情に堪えざらしむるものあり依て直ちに筆を執りて此篇を草下したるものゝ如し篇中我日本が東洋の仲間を脱して西洋の仲間に入るの必要を論辨する章句の如き詞氣嚴勵勇將三軍を叱咜するの氣概あり　　時事新報記者

　日本は東洋國たるべからず　　　　　　　　　　　　　　　　　　　豊浦生

佛清關係の顛末は電信又上海よりの通信を以て已に世人の能く知る所なるべければ強ち當地より通信するにも及ばざることならん仮令これを通信すればとて全く舊聞に屬して其面白み薄ければ復た茲に贅せず且亞細亞の極端と歐羅巴の極端とは恰も圓き地球を二つに割た程の距離を懸隔に其電信線の數も歐米兩洲内の如く夥多自由ならず隨て其電信料も亦格外の直段なれば流石の倫敦「タイムス」新聞ですら充分に電信を用ひて其通信を得ること能はず唯佛國の軍艦が何處の臺塲を砲撃せしとか或は何處の戰爭に支那兵が大敗して其死傷幾百人なりしとか云ふ位の誠に大要の報知に過ぎざれば精しく戰塲の實况を知るに由なし仮令又其詳報を得ればとて其詳報は〓た郵便にて報じ來るものなれば少なくも間十日後にあらざれば〓に入らず誠に時節後れにて新聞の費料となすに足らず〓〓〓〓〓が英〓の〓にありて〓〓に英國の〓〓面目に〓〓たるものならば通信の電報は夥多〓〓〓〓〓其〓〓の〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓云はれ隣家の壯貪にして直接子自家の利害面目に關せざることなれば隨て其通信に甚だ〓〓〓〓人も亦支那の事件を聞くは在埃及「ゴルドン將軍の安否を知るの感情強きに若かず去れば當地より改めて之れが〓〓〓なすにも及ばず又之れをなせばとて萬々無益の業に風すべくれば今茲に贅せざるなり唯余輩が斯く歐羅巴に在て遠く東方を望み亞細亞の極端支那の東に我日本國のあるを視て大に心に感ずる所あるが故に其言の冗長なるを厭はず其所記の普通々信に異なるをも顧みず聊か左に所見を陳述し以て國外にある余輩と國内にある諸君と果して其意見を〓うする所あるや否やを質せんとす

抑も歐羅巴人が一條に東洋諸國を指して是を「ヲリエンタル」と云ひ其人を指して東洋人と云ひ全く彼我の別を明かにして其分界を正すは天然地理學上の名稱に由るにあらずして人爲社會の有樣に隨て之れを西洋諸國と云ひ又東洋諸國と云ふことなり地理學上にて所謂亞細亞なるものは天然地理の形に隨て之れを區書するものなれども各國の交際上即ち政治上にて所謂東洋諸國なるものは國々現時の有樣と古來の口碑とに隨て之れを斯く名稱することなり

試に視るべし彼の土耳其帝國は其首府を「コンスタンチノーブル」に置き地の理より之れを云へば儼然たる歐羅巴洲の一建國なりと云はざるべからざれども各國の交際上に於ては尚之れを「ヲリエンタル」と云ひ世人の常談にも其國人を視其國産を指して之れを東洋人又東洋の品物と云ふことなり去れば今日世人が所謂東洋なるものは地理學上の東洋にはあらずして交際上の東洋を指し天然の地理に由て區分したるものにはあらで人爲社會萬般の有樣一種特別歐羅巴に異なるが故に之れを東洋と云ふ者なり之れを譬へば我日本人が歐羅巴諸國は誠に文明にして強國なりなどゝ云ふ時の此の歐羅巴なる言葉は决して地學上の歐羅巴にあらず其社會萬般の有樣一種特別亞細亞に異なるが故に是を歐羅巴と云ふことなり

歐羅巴風と云ひ歐羅巴學と云ふ此の歐羅巴の文字中には亞米利加をも含蓄することなれども亞米利加の社會の現状と其口碑とは英佛等歐羅巴諸國に聊か異なる所あらざるが故に故らに亞米利加と云ふ文字を其間に加へざるも單に歐羅巴とさへ云へば併せて亞米利加をも意味するものなりと世人が自から了解するにあらずや故に今若し彼の土耳其帝國をして其政体法律宗敎學術等より日常の衣食住に至るまで社會全般の事物を一變して悉く之れを所謂歐羅巴風となしたらば世人の復た之れを東洋視する者なく即日歐羅巴中然かも其大國の部に加入さるゝは亦疑ふ〓れざる所なり

然るに今日の實際に於て其地理上の位置より之れを視れば判然歐羅巴洲中の大國なれども尚其東洋觀せらるゝは何ぞや其宗敎は回敎にして其政体は所謂〓政府の仕組なり其人民は頑冥〓〓唯無用の舊物を守て日〓實用の途に就くを知らず其法律は則ち〓〓〓の法律にして人民〓〓〓〓て成し〓にあらず俗に所謂下〓の疾〓ら〓〓〓〓制度〓〓〓ものなり其〓衣服なり食物なり家屋なり一〓歐羅巴に〓〓する所あらずして悉く歐羅巴諸國の〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓るが故に其地理の位置〓〓〓はらず斯くは世人に東洋視さるゝことなき故に〓ふ〓〓〓〓〓〓〓〓の〓〓〓〓〓〓〓〓の〓〓〓〓〓〓〓を下〓たる者にあらず〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓之〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓（未完）

３．**18841124「日本人種改良」英国豊浦生（日原昌造）**：高橋義雄さらに福沢にも影響を与えた

左の一篇は九月十二日倫敦發在英特別通信員より寄送ありしものなり　時事新報記者

日本人種改良　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　豊浦　生

近頃日本より達する新聞を視るに學者社會には頻りと内外雜婚の議論喧しく今日復た是に異説を唱ふる者なきに似たり小生も亦此儀に付ては誠に御同意にして毫も異論なし啻に異論なきのみならず偶ま獨身者の朋友に出會する時は勉めて其雜婚を勸奬する程の次第なり

種子を改良せざるべからざるの一點に至ては馬も人も更に異なる所なく是を改良するには異種の血を交へざるべからず同種と同類とのみ結婚して更に異種異類の血を交へざる時は馬にても人にても次第に其血統を損し其品格を失し馬なれば駑となり人なれば日本人の如く矮小虚弱の侏儒となるべし此理は少しく牛馬牧畜の事に經驗ある者の能く知る所にして生理上疑ふべからざるの定則なり去れば雜種の婚姻は人類を改良するの良手段にして他に又一策なしと云ふも可なり

古來我國民は唯日本國中の同種類とのみ結婚して他種の血を混ぜざりしが故に其身体漸く微弱縮小遂に今日の如く世界第一の矮小人種となりたる事ならん啻に日本人中にて結婚せしのみならず其日本中にても農工商抔の種族ありて大概は同種族中にて結婚せしことなれば其血統の混淆極て狹しと云ふべし故に我日本の人種を改良し其身体を強壯偉大ならしむるには様々の工夫あるべけれども先づ雜婚を以て最も適實のものとす扨其雜婚をなして其血を混するに最も良好なる血統は世界中何れの人種なる哉と考ふるに歐米の人種を措て他に望むべき者なし其体格の完全なる其体力の強大なる天下歐米の人を以て最良とす加ふるに歐米人は祖先遺傳の敎育を享有し其体力の強大なるに加へて其心力も亦太だ強大なるが故に此血統を以て我血と混和せば其子孫に至り必ず心身壯健の人種となる哉生理の定則に於て疑ふべからざることなり

此雜婚の〓に〓するに或は國体論の一種變形なるもの〓〓〓する者あり曰く歐米人の血を以て我血に混和する特〓〓〓〓〓矮小なる日本人を〓〓〓〓〓壯健の者となる事生理上疑ふべからざるの定則なれども此内外人の間に生ずる者の血統は半和半洋にして是を純粹の日本人と云ふべからず後世此半和半洋の人種が我國の充滿して天下純粹の日本人なきの日に至らば我日本國の土地は依然尚存するも是に居住する人種が純粹の日本人にあらざれば是を日本國と云ふべからず則ち其形は雜婚にあれ歸化にあれ其實は我神國の体面を損し我日本の獨立を失するものなり若し又其人種は如何樣に變ずるも日本國土の獨立のみを維持せんとの目的なれば雜婚抔の間接法に依らずして直に我日本國を英人なり米人なりに賣り渡し其賣上代金を今の日本人中に配分し以て一生を氣樂に消すべし何ぞ條約改正を論ぜん何ぞ治外法權を説かん日夜齷齪として國の獨立を憂慮する亦徒勞のみ

試みに見よ今の亞米利加合衆國は元と何人の領地なりし哉其土人「インヂアン」は年々歳々白人の爲めに其領分を押領され其人種も今方さに絶滅の期に迫りたり然れども其土地は依然亞米利加洲にして然かも其文明の度は天下最高の點に達したり若し其人種は如何成行くも唯其土地をさへ文明に進むれば毫も遺憾なしと云へば亞米利加の土人「インヂアン」の爲めには白人の押領を祝せざるべからず甚だ謂れなき次第ならず哉雜婚の説或は生理の眞理に適せんと雖ども我國体を損するを奈何せんと以上團体論の變形を唱ふる者が雜婚の説に反するの言なり

然れども能く眞理を究めて是を考ふるに雜婚をすればとて我國体を損するにあらず又其獨立を傷るにもあらず雜婚は唯我人種を改良するの一術にして是に依て生ずるの子孫は依然尚我日本人なり譬ば我日本の通過が其通用の際追々磨滅して其定位下に減ぜしが故に是を大扱の造幣局に持ち行きて鎔解し更に外國より幾分の金塊を仕入れて是れと混和し以て其減量を補ひ再び是を鑄て我日本極印を押て發行する時は仮令ひ其元質には幾分の外國金を含蓄するも尚是を日本の通過と云はざるを得ざるが如し我國民の血統歳月の久き追々磨滅して通常人間の定位價よりも下落して物の用に立たざるが故に他より幾分の良血を輸入して其缺を補ふのみ

人種を改良するも通貨を改鑄するも其是を改良するの一點に於ては更に異なる所あるべからず通貨は國の寶なれば是れに外國の金銀を混合するは宜しからずと云ふ是を改鑄せざる時は忽ち其品位を損して遂には通貨の用をもなすべからず日本人の血に外國の血を混合するは好ましからずとて是を改良せざれば年々歳々其人品を損して其微弱は益微弱となり其矮小は愈矮小となり遂には全滅するの期に達すべし如此は國体を維持せんとして却て其國体を損する者なり亞米利加「インヂアン」云々の説あれども此雜婚の儀とは更に關係なき者にして爰に其例を引用するは所謂牽強附會の説と云ふべし亞米利加洲に白人が渡來して其國を建て是を亞米利加合衆國と稱して其土人を逐退けんは則ち其領分を押領せん者なり其血を混和して其人種を改良せしにあらずして他の人種を以て元の人種に代へ英人を以て亞米利加印度人に代へしことなれば前の譬を用ふれば我日本の通過を廢して亞米利加「メキシコ」國の極印ある「メキシコ」弗を以て直に是を通用するが如し是れ則ち通貨を改鑄するにあらずして他國の通貨を以て直に我通貨に代用する者と云ふべし

我輩と雖ども此人種の代用は〓〓〓〓ざる〓にして〓〓〓でも我人種を改良し我人種を以て我國体を維持し我獨立を保たんこと畢生の願なり日本人種は消滅しても日本の土地さへ文明に達せば夫れにて足れり強ち日本の人種を以て其文明を進めんとするは太だ狹き量見なり四海は兄弟人類は同等何人が日本國を押領するも聊か妨なし抔世の中には千萬年の後を談ずる人もあれども我輩未だ遽かに此説に同意するを得ざるなり他の良血を取て我不良血と混合し雜婚の法を以て我人種を改良し他を化して我身となすは誠に同意にして聊か異論なしと雖ども他人を以て我身に代用し我國を擧げて他人の手に渡し他人の爲めに我國を押領さるゝは决して好むべき事にあらざるなり讀者幸に此二者の區別を錯雜して通信者の意を誤認することなかれ（未完）

４．**18851105「貧乏人の苦情」東京神田の一貧人**：本物か編集部による偽作かは不明

拜啓仕候私義は東京神田區或る町の裏長屋に住居仕る貧困の一職人に御座候が唯今こそ斯く貧困に罷在を親父の代までは相應に暮らしたる町家に成人仕候甲斐ありて新聞紙なども餘り六ケ敷陳奮漢語でさへなくば先づ一ト通りは讀め申候然るに新聞の社説論説など申す所を拜見するに國權民權治外法權などゝ何か喧ましき理屈のみ多く甚だ以て感服仕らず實を申せば私共の仲間にては三度食事の準備四時寒暑の防禦に忙はしく迚もゆるゆる國權民權などを味ふの暇無御座候斯く申せばとて強ち新聞紙の惡口を申す譯には無之唯私共は今少々手近き所の御議論を拜聽仕り度國權民權の御議論も結構は至極結構なれども何分廻り遠くして私共には差當り利害無之ものさへ斯く申候次第に御座候其手近き所と申すも色々有之候へども先づ第一番に私共の居住する長屋の事を擧て貧乏人の苦情を申述べんに此地面は本町福徳屋某の所有にて大屋欲兵衞殿が此地面を借地して今の貸長屋を建てたるものとの事に御座候

私共は自分の地面とては一寸もなく皆夫れ夫れ民有官有共有場にて已に此世界は悉皆他人のものと御成居候さへ傳る所私共は他人の所に居候又食客に罷出でたるに同樣の姿に有之候金滿家が此の廣き世界の土地を占有して私如き貧乏人が之を所有することの出來さるは致方もなき次第なれども私共の貧乏なるは私一人の罪でもなく金滿家の富裕なるは金滿家自身の手柄でもあるまじ私共は朝の七時から夕方の六時迄汗水を流して働き金持の旦那方は朝から晩までねんねこ袢天にくるまつて氣樂に日を消し夫れで以て私共は金がなく檀那方には金が澤山あるとは誠に以て理屈の知れざる譯合なり働らけば儲かり働らかざれば窮すると申す事は萬々承知なれども其反對の事が此世にあるとは誠に以て奇怪千萬と存じ候尤も檀那方の御先祖が働て多くの金を儲け私共の親が懶惰に此世を過去りたるが故に因果應報其子孫たる檀那方が氣樂に暮らし私共が困窮すると云へば何だか理屈らしく聞ゆれども能く能く深く其理屈を吟味すれば其理屈らしく聞へたるは却て不理屈の樣に聞へ無候抑も親の因果が子に報ふと申すは親の惡疾が子に遺傳するやうの事をこそ申せ親が金持ちゆゑ子も金持、親が船將ゆゑ子も船將に爲らねばならぬなどいふ譯にはあらず

親は何故に金を儲けたるやと問はんに定めて其人の智徳他に勝れ大に働きのありしゆゑならん然るに其親の死去したる時に大事な智徳も働きもこれを子孫に讓るの工風なく空しく生命と共に消滅したりとせんには獨りこの智徳竝びに働きより算出したる財産に限りてこれを子孫に讓り得べき道理なきが如し左すれば詰り人間社會の仕組が間違ているから斯く色々不都合の生ずる事と存じ候何でも人間社會の有樣を其根本から洗い浚ひきつぱり革めなければ迚も此儘に永續するとも思はれずされば檀那方の有金から家庫迄そつくり之を取り上げて之を國中の貧富平等に分配すれば夫れにて私共の苦情もなくなる如くなれ共夫では迚も檀那方が御承知なさるゝ筈もなく私共も何だか檀那方のものを掠奪する樣にて心持も能くなき譯なりさればそこには何とか法律又は規則を作り成る丈け一箇處に金を集めず常に融通して貧富廻はり持ち貧も富も一代限り功罪共に子孫に及ばぬ事に致し度もなり併しこれも追々の事として急に實施なり難しと云はゞせめては今の地代店賃の法にても何とか改正を加へ度ものなり

抑も借地して家作を建つるの不便經濟なるは讀者方も必ず御承知の事なるべく漸く家作も出來して小庭の一つも出來上りたる其時に地主の都合にて今迄一坪五錢の約束で借りたるものを六錢又七錢に値上げさるゝも急に其家作を取毀つことも出來ず他人に賣渡さんとするも買人なく不得止地主の命令に隨て其地代を拂はざるを得ず如何にも難澁至極の譯合なりそこで何とか規則を定め勝手我慢に地代を上ぐることはならぬとか又は地主に於て地代を上げんとする時は區役所等に出でゝ其地代直上げの理由を述べ其許可を得ざるべからずとか一体の法律を設けたきものなり

次に至急を要するは貸長屋の規則を定むることなり新聞を讀む人又書く人抔は東京市中裏店の實況を知るものなかるべしと雖も私共相長屋などの例を申せば其一軒とは間口一間奧行三間都合三坪上り口勝手元兼帶の板間を二疊取れば差引殘て四疊の一間あり此一間の内に夫婦と子供三人都合五人の家内が起居眠食するとなればその混雜推して知るべし尤も唯混雜のみなれば隨分我慢も出來るべけれども深更忽ち暴雨來て夜具を片付け疊を取り上げ明燈に傘をさゝせる事などは屡々なり其他どぶ板の不始末なる共同雪隱の不潔なる實以て言語道斷の次第なり夫れで以つて一箇月の家賃一圓から一圓五十錢にして大屋殿も家賃の催促は誠に嚴重なれども屋根の修繕と雪隱の掃除は幾度之を歎願するも嘗て聞屆けられたることなし

如何に金の威光とは云ふものゝ餘りと云へば不都合なる仕方なり所で此類の貸長屋にも何とか相應の取締を儲け先づ貸長屋を建てんとするものは其場所間取又家賃等を精細に認めて之を區役所等に出し其許可を得て後ち貸長屋の商賣をなす樣の仕組に數度存し銭其他色々の苦情は澤山有之候へども先今日はこれ既に致置其内職業の餘暇を見合して種々可申上此邊の手近き事情に付き何卒諸先生の御議論を承り度先は右苦情迄匆々頓首

　　明治十八年十一月　　　　　東京神田の一貧人

時事新報社御中

５．**18880306「外国行の日本学生」シモンズ**：翻訳者は福沢諭吉のように見える

ドクトルセメンズ原文

教育の事に就て日本國は近年驚く可き進歩を爲したりと雖も自國の學校に於て西洋の學問と西洋の語を學び得ること西洋諸國に於て教育を受るが如く完全無缺ならんとするは日本人の爲めに難きことなり故に天性怜悧にして功名心ある當國の學生が此目的を達せんとて學問の叢淵たる西洋の國に行かんことを願ふは誠に無理ならぬことなれども爰に不都合なるは此事を實行する爲め割合に費用の莫大なる一事なり故に日本人の爲めに謀りて斯る遠國に行き斯る大金を費さんと决斷する其前に先づ以て熟慮勘辨するは甚だ大切なることなり殊に其洋行生が入用の金を他人に借るか又は兩親が其子の爲めに學費を作らんとて非常に身を詰め儉約するが如き塲合には尚更らのことなり

抑も學生が洋行するからには其歸來の上は彼の留學中に學び得たる所のものを利用して多分の金を作り後に得る所は前に費したるものよりも多く以て前日の借用を拂ひ又は兩親の老餘を安樂にして恩に報するに足る可しと信するは勿論のことなれども余は一言これを評して甚だしき投機なりと云はざるを得ず即ち其實は賭博の一種にして株式の取引の如く米の相塲の如く又骨牌の勝負の如く危險至極の事共なり學生が歐米の學校に卒業せんとするには是非とも四年の本課程を踐むの覺悟なかる可らず尚ほ其上にも直に此課程に入るを得る者は甚だ稀なる可し其次第は第一日本の學生は外國の語に通ずること十分ならざればなり假令へ日本の大學校を卒業したる者にても尚ほ不十分なる可し第二若しも大學校の卒業生にあらざれば其從來學び得たる學課は西洋諸學校の組織に同しからざるが爲め或る課目に對しては學力〓りありながら他の課目には不足して本課に入ること難ければなり

斯る次第にして何れにも餘分の光陰一箇年を費すことなればいよいよ學課を終りて卒業證書を得るは五箇年の事と知る可し扨右の目的を達する爲めに五箇年の學費と徃來の旅費とを計算するときは少なくとも六千円なる可し而して當國に於て六千円の數の大金たることは誰れ人も知る所ならん此金圓あるば之を資本として普通の事業を興すに足る可く又或は八分の利子を計算しても四百八十圓の収入あり即ち四十圓の月給に當るものにして之に依據すれば何等の仕事をも爲すに及ばず相當の暮しにて小人數の一家を支るに足る可し左れば余は六千圓金の〓却を疑はしとしたれども實は十中の八九疑はしきのみならず畢竟能はざることなりと云はざるを得ず是即ち余るが投機賭博の評を下だす由縁なり外國の學校のみならず何れの學校にても之に入學して得る所の教育は大概皆純粹の專門學術ならざるはなし何れの國に於ても單に專門の學術上に教えられたる者は後年に至り唯僅に豐ならざる月給取と爲りて半生を終るのみ歐米に於て大學卒業生の數は千萬啻ならずして其所得は上等の大工左官の日雇賃に及ばざる者多し而して其大工左官は生涯の間に一箇年より永く學校に出入したる者にあらず又世の奇相とも云ふ可きは專門の學術に教えられて年齢二十二三歳までも學校に出入したる者が事業家と爲りて富を致したる例の稀なる事實なり盖し其教育は却て本人をして此種の働に不適當ならしめたるものゝ如し故に此輩は往々事業家に使用せられて書記若くは助手の用を勤ること簿記方に異ならずして給料も亦大抵同樣なるを常とす

左れば日本に於て殖産商工の事業大に發達したりとて蝶々する者多けれども其事業に付き學術專門の學者を要するものは甚だ少なくして今後數年の後も亦同樣なる可し今日既に此種の學者は需要よりも供給の方、超過するよし余が傳聞したる所なれば目下の要は純粹の學者よりも實業者に在るの時節にして其實業者の教育は割合に深き學識を授るに及ばざる者なり以上の所記果して違ふことなくんば六千圓金を借用し西洋教育の方便を以て之を償却せんとする少年生は如何す可きや或は外國に行くも必ずしも卒業に志すに非ずして留學僅に兩三年なる者もあらんと雖も尚ほ二三千の金圓なかる可らず既に之を費したる上は歸國の後、何か事業に就き數年の艱難辛苦を以て元利を償却せんとするも最上の好都合にて尚ほ且つ覺束なきことなれば其艱難辛苦は恰も生涯の間、首に掛けたる石碾に等しかる可きのみ故に余は世間の父母又は友人に向て一言を呈し苟も家に餘財あるに非ざるより以下は其子弟が投機樣の功名心を以て熱して洋行留學を願ふことあるも容易に之に致さるゝなきを忠告するものなり

６．**18940110「本軌鉄道と狭軌鉄道」理学士福沢捨二郎**：諭吉の次男捨次郎はMIT卒業。卒論の要約か

左の一編は先年福澤捨次郎氏が米國留學中鐵道の本軌狹軌の得失を論じたる作文の中より大要を拔萃して翻譯したるものなり方今世間に廣軌鐵道の議論ある折抦なれば參考の爲め記して社説に代ふ

本軌鐵道と狹軌鐵道　　理學士　福澤捨次郎

本論の目的は本軌鐵道（即ち歐米諸洲に專ら行はるる四呎八吋半の軌道を云ふ）と狹軌鐵道との利害得失を比較して其經濟上の優劣を定るに在り此比較をして公平ならしめんが爲めに余は運搬物の性質、分量等をば二者に於て同樣なりと假定し同數同質の乘客荷物を運搬するに本軌鐵道と狹軌鐵道と孰れが最も便利なるかを斷定せんと欲する者なり盖し通常世人は乘客貨物の運送甚だ頻繁なる本軌鐵道を以て運搬少なき片田舎の狹軌鐵道に比較して直に狹軌鐵道は廉價なり經濟なりと稱する者多し公平なる觀察と云ふ可らず又狹軌鐵道を非とする者は他線と聯絡を失するの一事を以て其大欠典と爲すの常なれどもこは偶ま歐米諸國に於て四呎八吋半を以て軌道の標本と爲すがために生ずる不都合にして狹軌鐵道に固有の弊害に非ざること明白なれば本論には更に關係なきことゝ知る可し

狹軌鐵道の第一の利益は線路の幅狹きが故に切取り及び築堤の土工費少なきの一事なり然れども線路の幅は軌道の幅を減ずるよりも餘計に減じ得べきものに非ざれば此點より生ずる利益は决して世人の考ふるが如く大なるものに非ず試に之を計算するに路幅十四呎、中央の高さ十呎、左右の傾斜一半に付一なる本軌鐵道築堤の計畫を狹軌（三呎）に變ずるが爲めに土量の減ずる高は僅に百分の六に過ぎず又此の變更に就きカルベルト、土管の長さも幾分か減少するに相違なしと雖も其爲めに生ずる利益は土工費の儉約よりも尚ほ些細なるものなり隧道の工費も軌道を狹くするに隨て幾分か減少す可しと雖も隧道工事中にて最も困難なる堅坑及び頭坑（本坑より少しく先に進んで穿つ小さき坑道にして後に之を掘廣げて本坑と爲すもの）を穿つの勞力は軌道の廣狹如何に拘はらず同一なること勿論にして又周圍の壁を積立る費用も决して軌道を狹くする其割合には減少せざるが故に隧道費に就ての儉約は思の外に大ならず又狹軌鐵道に於ては枕木の長さ及び太さをば少しく減ずるを得可しと雖も大に之を減ずるときは枕木のバラスト（線路に敷く砂利）に接する面積を減ずるが故に軌道の強固性を損じ爲めに線路保存に餘計の手間と入費とを要するに至る可し

左れば實際米國などの狹軌鐵道にては本軌鐵道と同じ大きさの枕木を使用するもの少なからずバラストも亦枕木と同じく軌道を狹くしたりとて漫に之を減ずるときは線路保存費に影響を及ぼすが故に大に儉約を施す可らず車輛の重量及び代價の點に於ては狹軌道に聊かの利益もなし凡そ客車にても貨車にても其容量を變せざる限りは車の幅を狹くするに隨て長さを延ばさゞる可らざるが故に狹軌鐵道の車輛が本軌鐵道のものよりも重量少なきの理由は固よりある可らず貨車客車の重量に異なる所なければ之を引く機關車の重量、馬力等も亦軌道の廣狹如何に拘はらず同樣ならざる可らず又同じ容量の車を製造するに其形の長短廣狹に由りて代價の異なる謂れなし現に何處の製車會社に於ても狹軌の車輛を造るに同容量の本軌車輛よりも安き代價にて引受る者なきを見ても明ならん機關車に於ても亦之と同じく軌道の廣狹に由りて其代價に高低の差を生ずるが如きことは决してあることなり

列車の重さに變りなき以上はレールの大さも亦兩軌道同一にして差支ある可らず又橋梁は唯聊か幅を廣くするまでのことにして是れが爲めに別段に入費の嵩むことなし何となれば橋梁の建築費は之を通過する機關車の重量に由りて定まるものにして其廣狹如何の如きは極めて些細の事抦なればなり

曲線の抵抗に關する兩軌道の差は狹軌鐵道に在ては内側のレールと外側のレールと長短の差、本軌鐵道に於けるよりも少なきが故に外側の車輪がレールの上を廻轉せずして滑ること少なきの一事に外ならざれども此點より生ずる利益は誠に僅小ものにして敢て考究するの價値もなき程なり線路敷設の際聊か勾配の取方に注意するときは本軌鐵道の曲線抵抗をして狹軌鐵道と同一たらしむること甚だ易し米國などの例を見るに廣軌鐵道にして狹軌鐵道に劣らざる劇しき曲線を用ふるもの甚だ多し

狹軌鐵道に於ては車輪と車輪との間狹きを以て車體安穩ならず大速力を以て疾走するときなどには顛覆し易きの弊あり但し車輪の直經を縮めて車體の重力中心を低くするときは少しく此弊を減ずることを得べしと雖も車輪の小なるに隨ひ摩擦を大にして列車の抵抗を增加するの害あり何となれば摩擦は車輪の直徑と正しく反對の割合を以て增減するものなればなり右の如く狹軌鐵道に於ては車輪の顛覆し易きと又車輪の摩擦大なると此二原因の爲めに汽車の安全なる速力、本軌鐵道に於けるよりも少なからざるを得ず是れ恐らくは狹軌鐵道の最大缺典なる可し

車輛をして疾走の際容易に顛覆することなからしめん爲めには其高さ及び幅をば軌道の幅と各一定の割合に定めざる可らざるを以て狹軌道の車輛は同容量の本軌道の車輛よりも幅狹く高さ低き代りに長さは長からざるを得ず然れども車輛の長さは限なく延ばし得べきものに非ざれば結局狹軌鐵道の車輛の容量は本軌鐵道の車輛に及ぶこと能はず隨て多量の乘客貨物を運搬するに當ては狹軌の本軌に及ばざること明白なりと云ふ可し又同量の貨物を運搬するに狹軌鐵道にては車數多く且つ列車長きを以て列車費及び避線等の入費本軌鐵道に於けるよりも大なり以上論ずる如く狹軌鐵道の本軌鐵道に優るの點は唯築堤、切取、隧道、石積、枕木、バラスト等に於て極々些細の利益あるのみにして其代には營業上種々の不利益少なしとせず之を要するに狹軌鐵道は運搬物の數量少なく且つ速力も大なるを要せざる商賣不繁昌の塲所即ち鐵道の要用を感ずること最も少なき地方に敷設したらんには或は利益なるやも知る可らずと雖も一般普通の塲合に於ては本軌鐵道の方遙に利ありと知る可し

**⑦ ま と め**

１．1890年を境に日原昌造・高橋義雄・シモンズらそれまでの署名執筆陣が退陣している

２．時事新報社内の体制の変更と国内政治の立憲体制への変革が論調に変化を起こしたものか

３．前期（1882～1889年）、後期（1890～1898年）ともにアジア蔑視の侵略論を主張するものはない

４．前期は読者の考えを西洋文明化するための啓蒙的な社説が多いのに対し、後期は科学技術・金融政策等へ　　の具体的な近代化を促そうとする社説が多い